

第1回板橋保育園三者協議会 主なご質問やご意見のまとめ

質問1 スライドが見やすくわかりやすかったです。「園内外・室内の行き来が自由」ということで、安全面に関しては、具体的にどんな対策を予定しているのでしょうか。人数が多いため、各児童を把握することが難しそうです。

【回答】 子どもたちは成長に伴い、行動範囲も広がり活動も活発になります。歩くようになれば転びますが、転ぶからと言って歩かせないわけにはいきません。子どもたち自身が石を乗り越える力をつける、安全力を身に付けることも大切だと考えます。園内外・室内の行き来については、大人の目が届くよう職員を配置し、大人の把握できる範囲で自由に過ごします。

保育の安全対策に「ハザード」と言う言葉があります。ハザードとは子どもたちの発達には関係のない危険因子を言います。園ではハザードの有無、転んだ時にけがをしやすい尖った角や落ちているもの、床や壁、遊具や玩具の破損、鍵の状況や衛生環境等、毎日点検をします。ドアには大人しか手が届かない場所に2つめの鍵をつけ子ども自身による閉じ込めや、園外に出てしまうことのないよう物理的に対処します。玄関や外部に接続する箇所につきましては自動施錠などのセキュリティをかけ、防犯カメラを事務室のモニターで常時確認いたします。

質問2 食事と午睡の自由度の高さについて、子どもの意見と保護者の要望が食い違うとき、どう対応しますか。

【回答】 子どもの最善の利益を第一に、子どもの発達や今後の見通し等について保護者様と共有し保護者様と対話を重ね共に考えていきます。

園では一般的に食事、睡眠、着脱といった場面の切替えの際に虐待が起きやすいと言われていきます。例えば野菜がどうしても食べられない子に「野菜を食べないと、デザートは食べちゃ駄目」とか、眠くない子に「今は寝る時間、動いてはいけない」と強いる、その他、大人の都合を優先しすぎてしまうと、子どもたちにとっては過酷な状況となり、虐待になりかねない場合もあります。個人差もありますので、全てのお子様一律の対応をしないことも重要だと考えます。

余談にはなりますが、3、4歳ぐらいになると、よく保護者の方から、「うちの子は食べ物の好き嫌いが激しいです。どうしたら良いですか」という質問をお引受けすることがあります。そのときにお伝えすることは、「とっても美しい行為ですね」と言います。それはなぜかというと、舌の上には味蕾があり、生まれてきた間もない子どもたちは味蕾が2万ぐらいあるのですが、成長に伴って最終的には2,000ぐらいになります。乳幼児期は味覚が多く、味覚がとっても敏感です。好き嫌いがあるのは味覚が敏感だからこそということもあるのではないのでしょうか。とてもみずみずしい時間を過ごしてるのかもわかりません。どうか長い目で見て差し上げてくださいますと、お伝えしています。「一口食べてごらん。一口だよ」という大人からの働きかけは、自分が幼少期だとしたら威圧的に感じないだろうか、子どもの心にどう響くだろうか、子どもの目線も大切にしていきます。

質問3 保育内容は非常に魅力的に感じておりますが、受入人数も多く、対応できるだけの職員がいるのか不安にも思います。姉妹園も決して近くはないので、連携がとれるのかも懸念の1つです。どう対策されるのか、考えを伺えたらと存じます。

【回答】 法人園には「すまいる委員会」という委員会があり「保育」「安全」「食育」「研修」「総合」という5部会（14委員会）に分かれ、概ね月1回、ZOOM等も利用しながら情報交換や実践報告、問題点や課題を話し合い保育の質の向上に努めています。各園が単独で保育を行うのではなく、法人園全園が連携しながら保育を進めています。

系列園の一つには板橋保育園民営化園と同規模の102名定員の認可保育園があり、同園でも今回ご紹介した子ども主体の保育を行っています。それらの経験も板橋保育園民営化園に活かして参りたいと考えています。

「すまいる委員会」には保育士養成校教諭、大学教授や研究者等、複数の専門家からなる「すまいるアドバイザー」がいます。すまいる委員会での課題や計画についてのアドバイス、子どもたちの発達や保育環境、職員の資質向上や研修、子どもとのかかわり方など、保育の質の向上について直接指導をいただいています。法人ではそれら養成校の先生方とのネットワークも活かし今後2年間、職員の資質向上に努め、また職員の採用を着実に進めてまいります。

質問4 タイムカードはありますか。

【回答】 保育システム「コドモン」を導入し、タブレット端末にて登降園の打刻を行っています。法人全体でICT化を積極的に進めており、日々の園の様子や写真販売、携帯での情報提供を進めています。また発達についてもチャイルドケアウェブという発達支援システムを使い確認しています。

質問5 夏・秋・冬にお祭りがあるようですが、具体的にどんなことをするのですか。

【回答】 行事につきましては板橋保育園で行われている行事を大切に引継ぎ期間でしっかり学んでまいります。

(参考) 現在法人が行っている行事、行事の考え方について

大きな行事と致しまして年3回、親子で楽しむ行事があります。

夏：夏まつり（保護者会と園が共催し保育園の園庭、園舎を使い夏の縁日を楽しむ）

秋：親子ふれあい遊びフェス（親子が身体を使い楽しむ）

冬：ウインターフェスタ（親子でオーナメントやクリスマスツリーを制作したり、ゲームを楽しむ）

行事についての考え方

保護者の方に見ていただくための行事というより、保護者の方も子どもたちも親子で楽しめる参加型の行事を大切にします。

質問6 異年齢保育でも、各歳児のクラス毎に、担任の先生は固定で何人か担当に入るのでしょうか。保護者としても、メインで見てくださる先生がいる方が安心できますし、何かあったときに相談しやすいと思いました。

【回答】各年齢のクラスに1名、担任保育士を配置しお子様の発達やその年齢に適した保育を考えます。担任保育者は保護者様からの相談、連絡の窓口、責任者となって対応させていただきます。異年齢での保育計画とともに、各年齢の保育計画も立て、その中で、2歳児はこういうことをやろう、3歳児はこうするというのも、しっかり考えてまいります。3歳未満児につきましてはクラス全体の活動の計画だけでなく、一人一人の発達を援助する個別の計画も作成します。どうぞ御安心頂ければと思います。

質問7 食事はセミバイキングとのことですが、衛生面は大丈夫でしょうか。1人にならないか心配です。

【回答】

園でのセミバイキングは複数の食べ物が置いており、その中から好きなものだけを取るといいうゆるホテルのビュッフェとは異なります。

食事には一人一人、その子どもに合った食事の量と食事の時間があります。厚生労働省の「保育所における食事の提供ガイドライン」では、何をどれだけ食べるのが良いのか「自分に合った適量を決める力を育てていくこと」が保育の大切な目標であるとされています。

セミバイキングでは配膳台に1人1食の基準になる量の見本を置き、子ども自身が自分で基準の食事量と比べながら、自分で食べる量を考えお皿に盛り付けてもらう、就学後の学校給食に近い形となっています。こうした経験を通じ「自分に合った適量を決める力」を育てていきます。

衛生面については、現在まで12年間、複数の園を運営してまいりましたが、衛生面で何か大きな問題が発生したことはありません。すまいる委員会の厨房委員会で調理方法や衛生管理、食材選定、セミバイキングや食事の様子、食事介助等についてマニュアルを定め、常に改善を図っています。

「看護委員会」では園の看護師により衛生管理やアレルギー対策についてマニュアルを作成し職員研修を行っています。子どもたち自身の衛生管理の力をつけることも大切ですので台拭きや手洗い、マスクの着用等の守れるルールを教えるところから始めます。

子どもたちのテーブルに保育士がつき食事介助とともに、嚥下や咀嚼力、食具の使い方や偏食等、お子様一人一人のお食事の様子を把握し、給食会議で共有、対応を考えていきます。

お子さまが1人きりで食事をするようになるのではというご心配についてですが、ご心配はごもっともなことだと思います。もし1人で食べている子どもがいたら、その子どもたちの気持ちを尊重しながら「●●ちゃんがお隣に来てもいい？」とたずね「いいよ」と応えれば他のお友達を呼んだり「一人で食べたい」という場合は、「ここに先生がいるからね」と見守っていることを伝えます。子どもたち一人ひとり、目に見える姿だけでなく、子どもは何を望んでいるのか、目の前にいる子どもの姿とともに心を見る・感じることも大切にしています。

質問8 発達支援のためのクラウドサービス・システムがあったのですが、これは、担任の先生がシステムに対して、この子はこういう発達が見える、見えないということを細かく知るために利用するということですか。また、その結果に基づき、具体的なアドバイスがもらえるというシステムなのですか。

【回答】

発達支援のためのクラウドサービス「チャイルドケアウェブ」(CCW)は、一人の担任だけでなく複数の保育者が確認をします。CCWには全国の園児数万人の発達のデータから導いたその年齢・月齢で顕れる・予想される発達の姿が「生活」「運動」「人間関係」「認知」「言葉」「表現」に分類され、それぞれ各年齢・各月齢毎に100項目以上の姿が記されており、一人一人の様子を確認することで「発達カルテ」を作成、発達の様子を客観的に把握するとともに、今後の予想や保育環境の改善につなげていくことができます。

系列園では1日保育士体験という保護者様が保育を実際に体験していただく日があります。午後に個別面談を行いますが、保育園でCCWにより把握している「発達カルテ」とご自宅での様子を交換し、お子様の育ちや保育をどう進めていくか等について共有します。

また平素、保護者様から発達や保育のご質問をいただいた最にもCCWを利用しています。CCWには「発達カルテ」の他、子どもたちの行為の理由、発達のメカニズムが記されており、例えば「高いところに上りたがる」のはなぜか等、子どもたちの行為の原因についての研究やデータがデータベースになっており、子どもの行為の原因について保護者様にお伝えしたり、保育環境を考える際に使用しています。これらの機能を踏まえ10社位比較した中から、私たち保育者と、そして保護者様にとって最善の利益のあるものは何だろうかということ念頭に置き、CCWを導入することとしました。

質問9 異年齢保育を導入ということですが、それは毎日、常に異年齢で過ごす時間があるのか。それとも、月に何日かという形なのか。また、異年齢にするっていうのが少し難しいお子さんもいらっしゃると思うのですが、そういったお子さんへの対応はどうか、お聞かせください。

【回答】

園が考える異年齢保育とは、今日は異年齢の日と曜日や時間を固定し5歳と1歳の子が遊ぶ環境を設定する保育ではありません。子どもの空間や時間の制限を緩やかに保育を行い、年齢のクラスが違う子どもたちでも、発達が近い子どもたちは自然にグループになり遊ぶことができる、柔軟な保育環境を想定しています。また年齢の異なる子どもたちが共に過ごすことで、小さな子は大きな子の様子を見て憧れを抱き、挑戦する意欲を掻き立てられます。また大きな子は小さな子に見本を見せる、教えることで知識や経験を自分のものにしていくことができます。

系列園の鶴ヶ岡すまいる保育園の様子をご紹介しますと、概ね5歳は5歳、4歳は4歳と自然にグループが分かれますが、例えば3歳児クラスでも4月生まれ子は実質的には4歳児です。3月生まれ子は3歳になったばかりで同じ3歳児クラスでも年齢的には1年間の違いがあります。発達の

に年下の年齢の子と過ごすことが楽しい子もいます。

子どもたちが自分の発達にあった活動ができる、発達が近い子と自然に過ごせる保育環境とご理解いただければ幸いです。いつでも自分の発達に合った保育環境で過ごすことのできる保育環境となります。

また一人一人の気持ち大切にするため、独りでリラックスでき、落ち着いて過ごせる場所等、発達や気持ちに配慮した環境を用意するよう配慮しています。